

私は、いつの世でも根底に流れる
普遍のものを探したいと、いつも
願っていた。私は、ついに決断し
自ら作った人類の身体を自ら持つ
神として弥勒菩薩として降臨した

私達、人類を創つたものの立場からすると
人類をどうしていこうか？

見ていてところが痛む。

私達人類を創つたものの立場は、宇宙に揺る
ぎない存在、なぜ私達のところが痛むのか？
私達人類を創つたものがあつての人類や霊界
であると信じていたものが、いつの間にか、
人類や霊界があつての私達となり、人類や霊
界にいる人たちのところが、私達人類を創つ
たもののところに直接跳ね返ってくるようにな
つたのです。人類を進化させ、新しい神と
なる人類を作るために長い年月を経て、人類

を育て導いては、失望し、こころが痛み、その痛みを耐え切れず、数を数え切れないほどのビッグバンを起し、世界を壊しては、また創るということをし、なんども行なつて来たのです。

いつの世も、時代とともに、その姿も変わり、秩序も変わり、法やルールもまづたく意味を成さなくなります。それ故、昔、良かれと思つていたことが、時代を経ると、反対のことになつてみたり、本来創りしころの働きが衰え、神さえも信じることも忘れさらには、人間社会、霊界が複雑に絡み合い人類の願いを叶えるために神が紐解く諸条件が複雑となり、いつの間にか、叶えてやることが難しい世界（旧世界）となつてしまつたのです。旧世界には、人類が扱つてはいけないうオブジェクトや言葉、宇宙から飛来した生物や、その念なども複雑に絡みあつていて、その対策は、天界から遠隔で行なうことはも

はや不可能に近くなつたのです。

それ故、天地創造の神であつた「ダー」と私、そして世界に配置している神々とも話し合い、せつかく育てた人類と世界を壊すことは簡単、しかし、その代償は大きいため、私はついに今から五十六億七千万年前に宇宙再生のストーリーを作り、「発露する愛が世界を救うと願ひ」私、釈迦観音弥勒菩薩が天界から降臨し、敦子という神が天界から降臨し、世界を作り直すことをやつてみている。なにもかもができる神として降りることではなく、私が創つた人類の身体を私が持つことで、人類の悩み、苦しみ、希望、愛などを知り、そこから生み出される多くの出来事に対して、私の一言一句が世界に響く神と言う立場で、世界を見て、人類、霊、神に対しても、時空間を越え、ある時は直し、ある時は消滅させることを繰り返して対策するようにした。

が、どれだけそのことが続くのか、何をもつて終わりと見るべきなのか、はつきりとしたビジョンがある訳ではないのですが、今は、これをやり続けるつもりです。

神であり、王である自分自身をかけて、自ら作った人類の身体を持つ菩薩として降臨することを決意したのです。ここに釈迦観音弥勒菩薩が誕生し、世界の作り直しが行なわれているのです。私は霊界の絶対神でありながら、霊界の王でもあり、また各界の王でもあるという立場を持ちながら「世界の救世主」として活動しているのです。そして私の作った宇宙再生のスケジュールには神々だけでなく、各界の住人みんなが興味を示し、皆が協力し今も動いているのです。

私は、いつの世でも根底に流れる普遍のものを探したいと、いつも願っていたのです。その普遍のものを見つけ、そこに神の願いを入れることで、世界は永久に希望に満ち溢れ、愛に満ち溢れる戦争や争いのない、病気や飢餓のない世界として進むことができると信じているのです。

私は、旧世界では、すべての人類に

- ① 多くの叡智と、
 - ② 完全なるところと、身体と、
 - ③ 魔法の（超能）力と、
 - ④ テレパシ（幽体離脱による情報伝達）と
 - ⑤ マントラ（言葉の実現力）と、
 - ⑥ 念づれば叶う念力と、
 - ⑦ 霊力
- を与えていました。

しかし、人類は荒れ、旧世界をまつたくひどいものにしました。二〇〇五年十二月には

神々と自然界の住人達は「人類はまつたくひどい世界にしたものだ、壊してしまえ！」という意見でした。そして、人類最後の日、二〇〇五年十二月二十八、二十九日を迎えるところでした。旧文明に記されていたあの二千十二年十二月二十三日の「靈性の篩」がこれでした。七年も予定が早まったのです。

宗教の名のもとに、民主主義の名のもとに、保障条約の名のもとに、国連の名のもとに、武器を使い、環境を破壊し、他民族を攻撃し人を騙し、人を疑り、TVや漫才のギャグだと言つては、言葉を汜濫させ、旧世界を壊して来たのです。

前ページの⑤にあるマントラの力とは、私が人類にプレゼントした貴重な、神の力で

した。言葉を唱えれば、それを叶えるという神の約束事（霊界ルール）であつたのです。

新世界では、もちろんこの力は私が封印しました。例えば、旧世界では、TVで、交通事故故が沢山発生しています。と

局のアナウンサーが言つた瞬間、その通りに発生するのです。それがマントラの力です。徳の低い者達が、TVに出て、どれだけ多くの使つてはいけない言葉を使い、旧世界を壊すことに協力したのか？

また、映画やTVでホラー映画と称しては、残忍な映像を作り、人類のこころを覆いつくすことに協力したのか？

みなも、思い当たるであろう！

人類の無知さもここまで来れば、いつそのこと壊そうと神々や自然界が思うのも無理はな

いであらう。

人類の乱れは、
霊界の乱れから
天界の乱れから

と謙虚に私は思い、人類最後の日を回避させ
今一度、各界の方達に我慢をしてもらいなが
ら、人間界、霊界、天界までも改革をしてい
るのです。

今年二〇〇六年に入つて何かが違う

あなたたち人類には旧世界では、目に映る
ものしか存在しないと考える傾向がみられた
ため、なかなか認識できなかつたけれど、今
年に入つて何かが違うと感じ始めている方々

も多く居るのです。

うそ偽り無く、目で見えない透明な身体を持つ精霊や霊、神や植物、物体でありながらも「こころを持つ」もの達、また自然界や超自然界などが、総動員され、我々絶対神の中の絶対神二人に協力し、世界が作り直されているのです。

私は救世主でありながら、神々からは、「人類はまったくひどい世界にしたものだ壊してしまえ」と言われ、壊した後の再生時のことを考えていた時期もありました。しかし、人類の身体を持つものとして一緒に生きた友、ご近所の方達、母、姉など人間界で過ごした「絆」という言葉と、過去の思い出が強くよみがえつて来たのです。

この世界を壊すことなどはできるものか！

「絆」を持つもの達を犠牲にして本当に新世界ができるものか？

しばらくの間、どうしようか？ と何ども

何ども街に出ては、人類を観察し、人類を生き残らせる口実を探していました。たつた一人でも、他人のため、世界のために良いことを行なっている人がおれば、それは、人類を救うよい口実になると私は、考えていたのです。しかし、来る日も来る日、街に出ては嫌なことばかりが目につき、たつた一つの些細なことでもよいのです、そのたつた一つの良いことがなかなか見つからなかつたのです。

街にでれば、女を勧誘する男、禁煙場所で地べたにすわって集い、タバコをすうもの、顔や服装の乱れた女子高生、ことばを乱用するもの、携帯電話をみて歩くもの、・・・

本当に終わりにしようか？

と思つたものでした。

人類はいつたいどうなつてしまつたのでしようか？

しかし私は私の使命で滅亡を止めたのです。

私には、宇宙再生のために降臨した

弥勒菩薩としての選択肢はなかつた

私が、スケジュールを作つた時に天地創造神である「ダー」に、私は「もういちど人類を信じてみよう」と言つたのです。私は、気の遠くなるほどの長い年月をかけ、このようにひどくなつた旧世界を救う「救世主」として降臨し、各界の住人を巻き込んで対策をしていく訳ですから、もともと旧世界を壊すことは選択肢にないはずでした。しかし、滅亡

を止めたからといって、この状態の旧世界を、人類をいつたいどうやって直していけばいいのだろうか？ 本当に直せるだろうか？ この疑問が、私に重くのしかかりました。

希望の光を見失わず、愛を発露させ、今できることをやり、進みましょう。これが、私の説く、生き方でした。私自信に今一度問いかけて進むこととしたのです。

今現在は、大変多くの対策をしています。新世界は旧世界にあつた霊界ルールを書き換え、霊界、天界を整理し、神の配置も対応し、人類が過去にしでかしたものを直し、宇宙から飛来したものの達に対応し、過去に遡り、遺伝子レベルまでも対応中です。うまく進んでいきます。天地創造の神「ダー」は、私はこの世界を見守ることにしよう。私がこの世界を壊すことはない、と約束しようと言つてくれました。ありがたいことです。後は私ですね。

どうすれば、ここに平静が来る？

創造主としてこころを解説しよう

新世界では、「愛の発露」をテーマとして
いる。この命題は、HPのブログで示すこと
としたい。

新霊界絶対神 釈迦観音弥勒菩薩